

平成 16 年 6 月 24 日 定山溪中学校教育サポート報告

古田政美、板谷 利久

【教育の現場】

定山溪中学校 1 年生 1 クラス 8 名 (男 3 名、女 5 名)

平成 16 年 6 月 24 日 午前 10 : 50 ~ 11 : 40

社会科の授業として「豊平峡ダムに携わった人のお話し」

講師：古田政美

サポート：板谷利久

【授業サポートの背景】

社会科授業の内、地理に関する身近なものとして豊平峡ダムや定山溪ダムがあり、そこでは飲み水を供給し、発電もしている。この様に定山溪とは札幌市でも重要な場所である。では、これらダムはどうしてできたのだろうか、またその時の苦勞とは何だったのだろうか、こうした疑問に答えるべくわが自然教育分科会に要請がありました。

担任の安孫子先生は今年定山溪中学校に赴任してきたばかりではありましたが、東米里小中学校の教育サポート(平成 15 年 5 月 1 日実施)でもお世話になった先生でもあります。準備期間が短かったわりにはスムーズに授業に漕ぎつけることができたのも、以前に我々の活動を知っていただいたことが大きい。

【授業のすすめ方】

講師挨拶(定山溪と私の関わり)・・・5分

授業の流れを説明

定山溪周辺の変化・・・15分

二班に分かれて、実体鏡観察・地形図の説明。

ダムの話(パワーポイント)・・・25分

- 1) ダムの必要性
- 2) ダムの形と作られるまで
- 3) 苦勞したこと

自由討論・・・5分

【授業の風景】

古田講師により、授業の流れ、テキストの配付確認



-1 実体鏡観察

急峻な谷地形に驚いておりました。また、定山溪小学校を見つけて喜んでおりました。



-2 地形図の説明

実体鏡観察を行っている一方で、地形図を用いた周辺地域の変化を説明（古田講師）



-3 他の先生方の参加

校長先生をはじめ他の先生方が参加し、興味津々に実体鏡を覗いておりました。



ダムの話



自由討論

しかし、何にも質問はなかった。



【感想】

今回の授業は、「豊平峡ダムに関わる人の苦労話」ということで、まず、航空写真の立体視を通して豊平峡ダムがいかに谷深い場所にあるのか、どうしてそれが建設されたのだろう、作られるときの作業写真を見てどんな苦労があったのだろうかを知ってもらう構成になっておりました。

実体鏡の観察では、ダムの堤体は大きなものと思っていた子ども等も、周りの谷に比べれば随分と小さいものと感じていたようでした。また、当時間帯に授業のない先生方も加わり、子ども等同様に急峻な谷地形に驚いておりました。一方で、豊平峡ダム周辺の他に定山溪の温泉街周辺の航空写真も用意しておりましたので、去年まで通っていた小学校を見つけて喜んでいただけました。

ダムの話に入ると、言葉少なにスクリーンを見つめていましたが、洪水の被害を受けたこと、飲み水や電力を確保しなくてはならないこと、自然景観に配慮しなくてはならないこと、いわゆる「治水」、「利水」、「親水」の重要性について気づいてもらえたのではないかと感じました。また、これらの機能を最大限発揮するために、機械による大掛かりな工事ばかりではなく「人の苦労」があったと気づいてもらえれば幸であります。

最後の自由討論は、時間も押しせまっていたこともありますが、現代っ子の気質なのでしょうか、質問がなかったことが残念に感じました。

おわりに、定山溪中学校は1学年十人足らずの小さな学校で、都市部で問題の校内暴力とはまったく縁のないものと伺いました。しかも周りは自然が豊富で、札幌市を支える重要な場所でもあります。子ども等には、こうした地域に住んでいることを誇りにして更に成長していただきたいと思います。

以 上